

播磨経営倶楽部第4回例会を開催しました！

株式会社 稲田会計事務所

平成25年2月15日(金)、宍粟防災センターに於いて、播磨経営倶楽部第4回例会が開催されました。

今回は、株式会社山陽設備 代表取締役 中津政敏氏を講師にお招きし、入社から今日までの事業展開の中で、多くの課題に取り組み、解決したことなど、ご自身と会社の歩みと歴史をお話しいただきました。

講演後には、質疑応答の時間を設け播磨経営倶楽部の若い面々も真剣に質問していました。

社長講演要旨

1.創業期・事業承継期

先代が脱サラして創業した。しかし、折からの不況の影響により、中津政敏社長への事業承継時に赤字転落した。そこで、新事業を立ち上げたが、新事業がすぐに結果を残すことはなかった。業績が良い時に苦しくなることを想定して手を打っておくべきであった。

新事業は、当初苦しいのは当然。長い目で見るのが大切である。

2.変化に対応するために

右肩上がりの時代はすでに終わっている。今日の激動の時代を生き抜くには、経済のトレンドを読みつつ、会社は常に変わっていくことが求められる。商品には寿命があり、常に付加価値の向上に尽力することが求められる。しかし、いつかは破壊的技術が生まれる。その時、いかに早くその技術を取り入れるか、あるいは撤退するか、決断する必要がある。

「魚がいないところに釣り針を落としても成果は得られない」

3.経営のアドバイス

社長のポストや、有形資産は簡単に引き継ぐことができるが、経営ノウハウは簡単には引き継がない。

そこで、経営ノウハウの「見える化」に役立つのが財務会計システムである。

現在、TKCのFX2を導入しているが、これをうまく利用することで、会社の財務状況や事業部毎の業績が分かる。

財務状況、業績が分かれば、どの事業部に経営資源を集中し、どの事業部を整理縮小すればよいか分かるように

なる。

そうすれば、会社全体の業績が悪化する前に、次の一手を打てるようになる。

次の一手を打つためにも、利益を出すことは必須である。利益はお客様の満足の結果でなければならないが、事業環境の変化に対応し事業を存続させる為にも必要なものである。

「利益は将来の費用である。現在のような将来の読めない時代においては、利益を計上し、ある程度の内部留保の蓄積がなければ変化に対応できない。」

利益の用途が、正しいかどうか判断するために、社長自身のマニフェストを作成しておくことが大切である。

4.最後に

福沢諭吉の『学問のすすめ』の中の有名な一節で締めくくりたい。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず。」

されども今、広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、その有様雲と泥との相違あるに似たるはなんぞや。

その次第は、はなはだ明らかなり。学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。(抜粋)

最初の一文は有名である。しかし、その後の一節はあまり知れていない。それは、人の世を広く見渡すと、世の中には様々な人がいるのはなぜか？矛盾しているのではないか？という一節である。

これは、生来人間の能力に差はないが、勉強の有無で大きく差がついてしまふ、と福沢は伝えようとしているのである。

弊社代表講話

人を惹きつける力、それは、経営者自身の人格と、語ることができる夢そのものです。

上からの押し付けでは、人の力を引き出すことはできません。

若い時にチャレンジすることは、将来、人を惹きつける力となります。播

磨経営倶楽部は若い方々のチャレンジを応援しています。

次に、新事業にチャレンジしても、財務数値を見ることができなければ、次の打ち手を導き出すことはできません。

そのためには、自計化することは必須です。そして、経験の少ない若いうちは勘に頼るのではなく、経営理論と財務数値に照らし合わせて意思決定することも大切です。

中小企業と大企業の戦略は異なります。

中小企業が大企業と同じビジネスをやることは非常に危険です。

中小企業は、大企業ができないこと、すなわち、価格競争ではなく、迅速かつ繊細な対応による差別化集中戦略を心がけるべきです。

来たれ！播磨の次世代経営者！播磨経営倶楽部 会員募集！

次回の例会は平成25年4月17日に開催を予定しております。

入会を希望される方は、以下にご連絡ください。内容について、より詳しくご説明いたします。

〒671-2542

兵庫県宍粟市山崎町船元251-4

株式会社 稲田会計事務所

事務局：常務取締役 小林孝雄

TEL：0790-62-7277

eMail：kobayasi_takao@tkcnf.or.jp

